

平成 25 年度
お茶の水女子大学 生活科学部 特別設置科目のご案内
(ECCELL 社会人プログラム)

前学期・後学期いずれも、毎週火・水・木曜の 11・12 限（18：20～19：50）に 1 科目ずつ、集中授業で 2 科目、合計 5 科目が開講されます。

【前学期】

火曜日 ：実践音楽療法
水曜日 ：乳幼児教育・保育政策論Ⅰ
木曜日 ：現代保育課題研究Ⅴ
集中授業：保育メディア論
集中授業：子ども家庭支援相談Ⅰ

前学期開講科目 シラバス

実践音楽療法

2 単位 火曜日 18:20～19:50

担当：下川 英子（埼玉療育園 音楽療法士）

主題と目標

主題：「保育に生かす音楽療法」

目標：子どもの音楽療法の視点から音楽の拡がりを考え、コミュニケーションや自己表現を大切にする音楽活動を保育や統合保育、特別支援教育に生かす。

受講条件・その注意

特になし

授業の形態

■講義 ■討論 □購読 □実験 □実習 ■実技 ■発表 ■演習

教科書・参考図書

- ・教科書：音楽之友社「音楽療法・音あそびー統合保育・教育現場に応用する」
下川英子著 （¥2400＋税）
- ・その他、楽譜プリントやレジュメは随時配布する。

評価方法・評価割合

■ 小論文（レポート）（割合：30%） ■ 出席（割合：40%） ■ 発表（割合：30%）

授業計画

- ① 音楽療法とはー音楽療法の歴史、現在の状況。
- ② 赤ちゃんの楽器操作から見える発達。
- ③④発達障がいのある音楽療法と保育での音楽活動Ⅰ、Ⅱ。
- ⑤⑥肢体不自由児の音楽療法と道具の工夫。
- ⑦ 発語を促す音楽療法と保育での活動。
- ⑧ 子どもの発想・表現を生かす音楽療法と保育での活動。グループ制作。
- ⑨ 物語を作る子どもたち・物語に音楽を付ける音楽活動。
- ⑩ 簡単な合奏法、全体で個を生かす方法。

- ⑪ 心身を動かす伴奏法と編曲法。グループ制作。
- ⑫ 手作り楽器と身の回りの音を使った創作
- ⑬ 保育現場で出会う問題。ボディー・パーカッションの創作。
- ⑭ 成人の音楽療法から一死と向き合う。
- ⑮ 小論文、ミニコンサートなど。(順不同)

学生へのメッセージ

能動的音楽療法は子どもの発するものを大切にして、表現や他者とのコミュニケーションを深め、色々な問題の改善へ向けてゆきます。保育指針にも近似した内容が書かれていますがなぜでしょう。教え込む音楽・そろえる音楽ではなく、表現する音楽・仲間とコミュニケーションをとる音楽を、一緒に体験し考えてみましょう。楽器(ピアノ)が得意ではないかたも、全く心配はいりません。

授業日程

- ①4月16日(火)
- ②4月23日(火)
- ③4月30日(火)
- ④5月7日(火)
- ⑤5月14日(火)
- ⑥5月21日(火)
- ⑦5月28日(火)
- ⑧6月4日(火)
- ⑨6月11日(火)
- ⑩6月18日(火)
- ⑪6月25日(火)
- ⑫7月2日(火)
- ⑬7月9日(火)
- ⑭7月16日(火)
- ⑮7月23日(火)

主題と目標

2012 年 8 月、国会で子ども・子育て関連法の成立で、戦後築かれた幼児教育や保育の制度が、大きく切り替えられようとしています。また地域では、子ども数の減少を受けて、幼稚園を中心に保育施設の統廃合がすすんでいます。大都市部では保育所の待機児童問題が深刻化しています。今まさに、日本の幼児教育や保育は転換期にあり、ここ数年で劇的な変化を遂げることになるかと予測されます。実際に幼稚園・保育所等において日々行われている保育は、政策や制度の影響を大きく受けており、その制度・政策のありようを考えることは、保育実践を主体的に行う上で不可欠な作業といえます。

前期授業では、幼稚園・保育所に関わる政策や制度に関わる基礎的・原理的な事項の理解を深めるとともに、戦後を中心にその動向を整理します。また、大震災後の被災地の保育状況など、折々に保育の現状をリアルにとらえられるような情報等を織りこんで、抽象的な学びにならないような工夫をしていきたいと考えております。

受講条件・その注意

特になし

授業の形態

■講義 ■討論 □購読 □実験 □実習 □実技 ■発表 □演習

教科書・参考図書

必要に応じてプリント等を配布します。

『保育白書』2012 年版 2600 円(税別) ひとなる書房

(開講時に割引購読の申込みを受け付けます。)

評価方法・評価割合

■ 中間試験 (割合: 30%) ■ 小論文 (レポート) (割合: 30%)
■ 出席 (割合: 10%) ■ 発表 (割合: 30%)

授業計画／主な内容**保育所・幼稚園制度、基礎になる法令の概要とその意味**

憲法、子どもの権利条約、教育基本法、学校教育法、児童福祉法、子ども・子育て関連法(子ども・子育て支援法、認定こども園法改正法、関係法律の整備法) など

戦後の保育政策史、制度の変遷

戦後直後の創設期、高度経済成長期、少子化による定員割など施設暫減期、保育所需要拡大期

保育所・幼稚園・認定こども園を支える基準と現状

児童福祉施設最低基準、幼稚園設置基準、国際的な状況との比較、規制緩和政策の影響
子どもをめぐる状況の変化と保育政策

子育て世帯の実態、子どもの貧困、学力重視の教育政策の影響

子どもの最善の利益を保障する視点と保護者支援(就労支援・子育て支援)の視点について、政策上の変化と求めるべきこと

学生へのメッセージ

保育に関わる制度や政策の問題を考えることは、一見、日常生活とのかい離があり、保育の現場でお仕事をされている方でも、敬遠しがちだと思います。しかし、社会全体の保育水準の向上という課題を考えた場合、現場を支える制度や政策の充実なくしてその実現は不可能といえます。また、欧州などでは、人間の基礎を培う幼児期の重要性に着目し、

すべての子どもに豊かな保育を保障することが、活力ある社会を作り出すことにつながる
として、公的保育の充実に政府が動きだしています。このことは、保育の制度や政策を学
ぶことが、今後の日本社会を展望するための重要な課題であることを示しています。

この講座では、政策や制度・法令等の基礎やその動向を学ぶことと同時に、保育をめぐ
って起きている種々の問題状況を取り上げ論議する中で、子どものためによりよい保育を
実現するための課題と展望を見出していきたいと思います。

授業日程

- ①4月17日（水）
- ②4月24日（水）
- ③5月1日（水）
- ④5月8日（水）
- ⑤5月15日（水）
- ⑥5月22日（水）
- ⑦5月29日（水）
- ⑧6月5日（水）
- ⑨6月12日（水）
- ⑩6月19日（水）
- ⑪6月26日（水）
- ⑫7月3日（水）
- ⑬7月10日（水）
- ⑭7月17日（水）
- ⑮7月24日（水）

主題と目標

本授業では、受講生自身の関心をもとに、乳幼児の保育や教育に関する問題や、保育現場などで直面するさまざまな課題について、各自研究テーマを設定し、ゼミ形式で話し合いながら研究レポートの作成をめざします。たとえば、子どもの発達や育ちと保育の関係、実践現場における子育て支援のあり方、観察記録やカンファレンスの活用、保育環境や表現の問題、海外の保育との比較や保育の歴史など、各自のテーマについて検討を行い、研究を進めていきます。人数が多い場合は、研究テーマによって少人数のグループに分かれ、複数の担当教員とともに考察を深めていきます。隔週木曜日の開講を基本としますが、受講生の予定によって柔軟に日程を組んでおり、個別指導を行うこともあります。学期末に、学習・研究結果をまとめて発表しますが、希望者には日本保育学会などでの発表もサポートします。

受講条件・その注意

保育現場をもつ社会人向きであるが、学生参加も可。

授業の形態

■講義 ■討論 ■購読 □実験 □実習 □実技 ■発表 □演習

評価方法・評価割合

■ 出席（割合：50％） ■ 発表（割合：50％）

授業日程

- ①4月11日（木）オリエンテーション
- ②4月18日（木）図書館利用講習会
- ③5月9日（木）ゼミ
- ④5月23日（木）ゼミ
- ⑤6月13日（木）ゼミ
- ⑥6月27日（木）ゼミ
- ⑦7月11日（木）ゼミ
- ⑧7月18日（木）研究発表会①
- ⑨7月25日（木）研究発表会②

担当：一色 伸夫 (甲南女子大学人間科学部総合子ども学科教授)

坂上 浩子 (NHK編成局ソフト開発センター エグゼクティブ・プロデューサー)

【坂上 浩子 講師】

主題と目標**「子どもとメディア ～世界のこどもコンテンツ制作の視点から～」**

あなたは、「良い子どもメディアとは何か？」という問いになんと答えますか？そもそも「子どもにとって良い」とは、どういう意味で「良い」のでしょうか？

近年、赤ちゃん研究などの進展から、乳児の様々な認知能力が明らかになりつつある一方で、ごく幼い時期からのメディア接触についての警告もなされてきました。コンテンツの制作者サイドでは、一方的にプロがつくる時代は終わり、ユーザーも作って発信する、すなわち「ユーザー・ジェネレイテッド（トランス・メディア）」の波が地球規模で押し寄せています。そこに不可欠の装置となったインターネット。こうしたメディア激変期を生きる子どもたちの発達・発育において、メディアに触れる・触れないと言ったプリミティブな議論ではなく、コンテンツの質とコミュニケーションの関係、そして社会的・歴史的なマクロな視点での議論が、ますます必要となっています。

そこで当授業では、具体的な番組やコンテンツを題材として、メディアと子どもの良い関係をつくるための社会的条件について考察を深めます。家庭や保育現場でメディア・リテラシーの土台を如何につくっていくかについて、国内外の乳幼児コンテンツ制作の現状をひも解きながら、望ましいメディアの内容と利用の方法を具体的に考えていきます。

受講条件・その注意

授業内でテレビ番組などのコンテンツを視聴します。聴覚障害や視覚障害のある方に対するサポートがされていないコンテンツがほとんどですし、個別の介助者の支援体制は無いと思いますので、その点で支障のある方は、大変申し訳ないですが受講に支障が出ることを考えられます。事前にご留意の上、受講される場合は大学当局とご相談ください。

授業の形態

■講義 ■討論 □購読 □実験 □実習 □実技 ■発表 □演習

教科書・参考図書

各回プリントを配布します。

【参考図書】未定

評価方法・評価割合

■ 小論文（レポート）（割合：80％） ■ 出席（割合：10％） ■ 発表（割合：10％）

授業計画**第1回 良い子どもコンテンツって？**

最近、メディアの国際コンクールで受賞している子ども向けコンテンツとは、どのようなものだろうか？現代の評価のポイントは、子どもの能動性を如何に育むかについて、メディアの特性を生かした新しい工夫がなされているか否か、である。が、具体的にはそれはどういうことなのか？いくつかの国際コンクールの授賞作品を見て、どんな点で「価値がある」のか、意見を交し合う。

第2回 子どもの視点、親の視点

調査では、1歳児のテレビ接触時間は3時間23分で、そのうち専念視聴は24分。つまり「ながら視聴」や「大人の随伴視聴」が一般の家庭では意外に多い。特に乳児の家庭では親がチャンネル選択権をもつため、親のメディア観は子どものメディア・リ

テラシーに大きな影響力を持つ。だが、子どもにとっては、テレビの視聴も「遊び」に他ならない。子ども自身が「おもしろい」と感じる番組やコンテンツとは？ 幼児の遊びと生活を豊かにする主体的な利用とはどういうものか、を考える。

第3回 乳幼児番組の特徴とは何か？

多くの子どもが最初に出会うメディアは、「絵本」と「テレビ番組」であろう。メディア教育で重要な点はコンテンツの取捨選択と利用の仕方、これはどちらに対しても言えることである。では、何をもって取捨選択するか？そこで、出発点として乳幼児向けテレビ番組とはどういうものか、ねらいや内容、制作過程などの特徴を把握する。多くの乳児に専念視聴される番組「いないいないばあっ!」、をとり上げ、対象児にきっちりと見てもらうための工夫について話し合い、「質」を判断するための視点を獲得する。

第4回 子ども番組の歴史の変遷

テレビの幼児番組は55年の歴史をもつ。子どもの生活上に画期的な変化を与えた昭和30年代を皮切りに量的増大はもちろん、技術革新を利用した先端商品として多様化、多メディア化を歩んできた。核家族化第2世代が子育て世代となった現代、子育て支援の役割をもつにいたっている。そして、IT化の影響は乳幼児向け番組にも及んでいる。技術革新や家族構造の変化とともに歩んできた子ども番組の変遷を知る。

第5回 コンテンツの教育的利用法を考える

教育的なコンテンツ利用とは何か？ 保育園・幼稚園での番組視聴は家庭とは違う意味を持つ。テレビ番組やデジタルコンテンツなどの映像メディアも教育素材のひとつと考え、適切に使うにはどうしたらよいか？ 絵本や紙芝居・人形劇などと並行してうまく使うには、それぞれのメディアの特徴をつかまねばならない。子どもの体験を豊かにするきっかけとなるような利用の仕方を考えていく。

第6回 赤ちゃん研究とメディア開発の最前線

さまざまな大学や研究機関で赤ちゃんの脳や認知にかかわる調査・研究が進められている。メディア制作者側では、そうした乳幼児の能力に応じたコンテンツの開発が進んでいる。また、世界の大学でも、メディアを研究するだけでなく、子どものコンテンツを自らつくるなどの動きも現われている。発達・発育の観点から見た場合、どんな内容が求められるのか。そして、よりよく活かすための利用法とそこで注意すべきことなど、メディアと子どもの社会的問題も含めて考える。

第7回 実践・メディアリテラシー ～発信・うまく使う知恵～

メディア・コンテンツは様々な作り手側の意図によって作られ、また、それは社会的産物であるとともに、「受け手」との相互作用によって豊かなコンテンツの質と利用の仕方が成り立つことを把握した。それでは、今後さらに変わって行くであろうメディア・コンテンツをうまく生活に取り入れていくには、どうしたらよいか？ それぞれ違った立場から「子どもメディアのオリジナルの活用法（＝遊び方）」をつくり出すことを目的とする。ポイントは、1) 子どもの視点、2) 周囲の大人の巻き込み方、である。

(第8回～第15回 一色講師)

学生へのメッセージ

最初の授業で、最近気になった子ども向けメディア・コンテンツ(番組や映像作品、ウェブ、ゲーム、アプリなど)について、また、自分の子ども時代に最も心に残っているコンテンツについて、「何が印象的だったのか」を質問します。

【一色 伸夫 講師】

主題と目標

主題：身の回りに氾濫するテレビ、ビデオ、ゲーム、インターネットなど多様な映像メディアに、子どもたちは大変興味を惹かれる。21 世紀の高度情報化社会で、子どもたちが健やかに育つために、子どもとメディアの良い関係を築くための様々な研究や教育に関して論考する。

目標：幼児とメディアの関係について、その特徴や制作プロセスの解説を行なうことによって、視聴覚メディアを用いた教育の持つ機能とその役割に関して様々なコンテンツや研究から考察する。

受講条件・その注意

特になし

授業の形態

■講義 □討論 □購読 □実験 □実習 □実技 □発表 □演習
ディスカッションも随時行う。

教科書・参考図書

特になし

評価方法・評価割合

■小論文（レポート）（割合：70％） ■出席（割合：30％）

授業計画

（第 1 回～第 7 回 坂上講師）

第 8 回 「セサミストリート」から「おかあさんといっしょ」へ

第 9 回 赤ちゃんはインフォメーションシーカーとして生まれる

第 10 回 現代社会とメディア

第 11 回 これからの子どもが身につけるべき習慣

第 12 回 新しいメディアとその問題点

第 13 回 高まる「こどもメディア研究」の必要性

第 14 回 賢いメディアの使い方

第 15 回 「子どもとメディア」の明るい未来

授業日程

8 月 7 日(水)①9:00-10:30 ②10:40-12:10 ③13:20-14:50 ④15:00-16:30 ⑤16:40-18:10

8 月 8 日(木)⑥9:00-10:30 ⑦10:40-12:10 ⑧13:20-14:50 ⑨15:00-16:30 ⑩16:40-18:10

8 月 9 日(金)⑪9:00-10:30 ⑫10:40-12:10 ⑬13:20-14:50 ⑭15:00-16:30 ⑮16:40-18:10

主題と目標

子どもと家族は、保育の場と家庭を行き来し、その両方を基盤として生活し、さまざまなことを経験しながら成長している。日々の生活の中には変化や波があり、それまでの親子の歴史や現在の課題、保育のあり方などと複雑に絡み合って、その育ちと課題はそれぞれに多様な表れ方をする。日々の保育実践の中で、このような子どもと家族にかかわり、親子の発達と適応を支援していくことは、今後ますます必要とされる保育者の専門性である。子どもと家族の支援にかかわる理論および技法について、子どもの発達や家族機能のアセスメント、相談支援、他機関との連携なども視野に入れながら、実践的に学ぶ。

授業の形態

■講義 ■討論 □講読 □実験 □実習 □実技 □発表 □演習

教科書・参考図書

授業で紹介する。

評価方法・評価割合

■ 小論文（レポート）（割合：50%） ■ 出席（割合：20%） ■ 討議（割合：30%）

授業計画**子どもと家庭をめぐる状況**

- ①子どもと家庭をとりまく社会状況と保育
- ②子どもの発達をめぐる課題—「気になる子ども」と発達障害
- ③親の育児不安とストレス
- ④子ども虐待の現状と対応

相談・支援の実際

- ①子どもの発達アセスメントと相談—子どもの困り感を理解し支援につなげるために
- ②家族機能、社会資源のアセスメントと相談—親との関係構築と社会資源の探索
- ③④ケース検討の方法

学生へのメッセージ

乳幼児を持つ親の思いを聴くこと、親をサポートすること、親子の関係性を支援することは、子どもの育ちにとって中長期的に大きな意味を持ちます。乳幼児期の親子をどのように理解し、支えていけるか、現場に即してともに考えていきましょう。

授業日程

8月10日（土）①9:00-10:30 ②10:40-12:10 ③13:20-14:50 ④15:00-16:30
8月11日（日）⑤9:00-10:30 ⑥10:40-12:10 ⑦13:20-14:50 ⑧15:00-15:45